

県内企業景況調査結果

[2022年1～3月期実績、2022年4～6月期見通し]

沖縄振興開発金融公庫 調査部発表

— 県内景況は、停滞が続いている —

調査結果のポイント

1. 業況判断 D.I.

実績（1～3月期）：「悪化」超幅がやや拡大し、10期連続のマイナス

[前期△16.4%ポイント（以下、単位省略）⇒当期△21.3]

- ・新型コロナウイルス感染再拡大及び原材料等の価格上昇による影響で、幅広い業種で厳しい状況が続いた

見通し（4～6月期）：来期は「悪化」超幅が大幅に縮小の見通し（来期△3.0）

- ・業況改善への期待感強まるも、新型コロナウイルスの感染拡大や原材料等の価格上昇が続くとみられ先行きは不透明

2. 景況天気

実績：3期連続の「☁️（曇り）」（前期△13.0 ⇒ 当期△11.9）

建設業、卸売業で「☁️（曇り）」→「☁️（薄曇り）」

飲食店・宿泊業で「☔️（雨）」→「☁️（曇り）」

情報通信業で引き続き「☁️（薄曇り）」

製造業、小売業、運輸業、サービス業で引き続き「☁️（曇り）」

見通し：「☁️（曇り）」→「☁️（薄曇り）」となる見通し（来期△2.9）

建設業で「☁️（薄曇り）」→「☁️（曇り）」

小売業、サービス業、飲食店・宿泊業で「☁️（曇り）」→「☁️（薄曇り）」

卸売業、情報通信業で引き続き「☁️（薄曇り）」

製造業、運輸業で引き続き「☁️（曇り）」

3. 売上 D.I.

実績：「減少」超幅が縮小（同△23.5⇒同△14.4）

見通し：「減少」超から「増加」超に転じる見通し（同 2.4）

4. 採算水準 D.I.

実績：「赤字」超幅がやや拡大（同△4.5⇒同△6.9）

見通し：「赤字」超から「黒字」超に転じる見通し（同 0.9）

5. 資金繰り D.I.

実績：「苦しい」超幅がやや拡大（同△11.0⇒同△14.4）

見通し：「苦しい」超幅がやや縮小の見通し（同△12.0）

※本調査の回答期間は令和4年2月28日～令和4年3月11日となっており、新型コロナウイルスの新変異株やウクライナ情勢、原材料上昇の影響等、最新の動向が十分に反映されていないことにご留意ください。

沖縄振興開発金融公庫 調査部

[調査内容についてのお問い合わせ先]

調査部 金融経済調査課（担当：國吉）

沖縄県那覇市おもろまち 1-2-26

電話：098-941-1725 FAX：098-941-1920

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象企業数	回答数	回答率 (%)
		(A)	(B)	(B)/(A)×100
全産業	全産業	379	333	87.9
	製造業	67	60	89.6
	建設業	69	61	88.4
	卸売業	48	44	91.7
	小売業	49	39	79.6
	運輸業	36	32	88.9
	情報通信業	23	20	87.0
	サービス業	47	43	91.5
	飲食店・宿泊業	37	32	86.5

※全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期 … 2022年1～3月期実績 来期 … 2022年4～6月期見通し

6. 調査実施期間

2022年2月下旬～2022年3月下旬

(発送：2022年2月28日、回収基準日：2022年3月11日)

※本調査の回答期間は令和4年2月28日～令和4年3月11日となっており、新型コロナウイルスの新変異株やウクライナ情勢、原材料上昇の影響等、最新の動向が十分に反映されていないことにご留意ください。

7. 用語説明等

- (1) 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- (2) D. I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- (3) 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD. I. を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

II. 調査結果

1. 業況判断

— 当期は「悪化」超幅がやや拡大し、10期連続のマイナス

来期は「悪化」超幅が大幅に縮小の見通し —

(1) [2022年1~3月期実績]

自社の業況を総合的に判断する業況判断D. I. は、 $\Delta 21.3\%$ ポイント(以下、単位省略)と、「悪化」超幅がやや拡大し、10期連続のマイナスとなった。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「悪化」超から「保合い」となったものの、情報通信業で「好転」超から「悪化」超に転じ、小売業、運輸業で「悪化」超幅が大幅に拡大、製造業、サービス業で「悪化」超幅が拡大、建設業、卸売業で「悪化」超幅がやや拡大となった。

(2) [2022年4~6月期見通し]

来期の業況判断D. I. は $\Delta 3.0$ と、「悪化」超幅が大幅に縮小の見通しとなっている。

業種別にみると、運輸業、サービス業で「悪化」超から「好転」超に転じ、飲食店・宿泊業で「保合い」から「好転」超、情報通信業で「悪化」超から「保合い」、製造業、小売業で「悪化」超幅が大幅に縮小、卸売業で「悪化」超幅が縮小、建設業で「悪化」超幅が横這いの見通しとなっている。

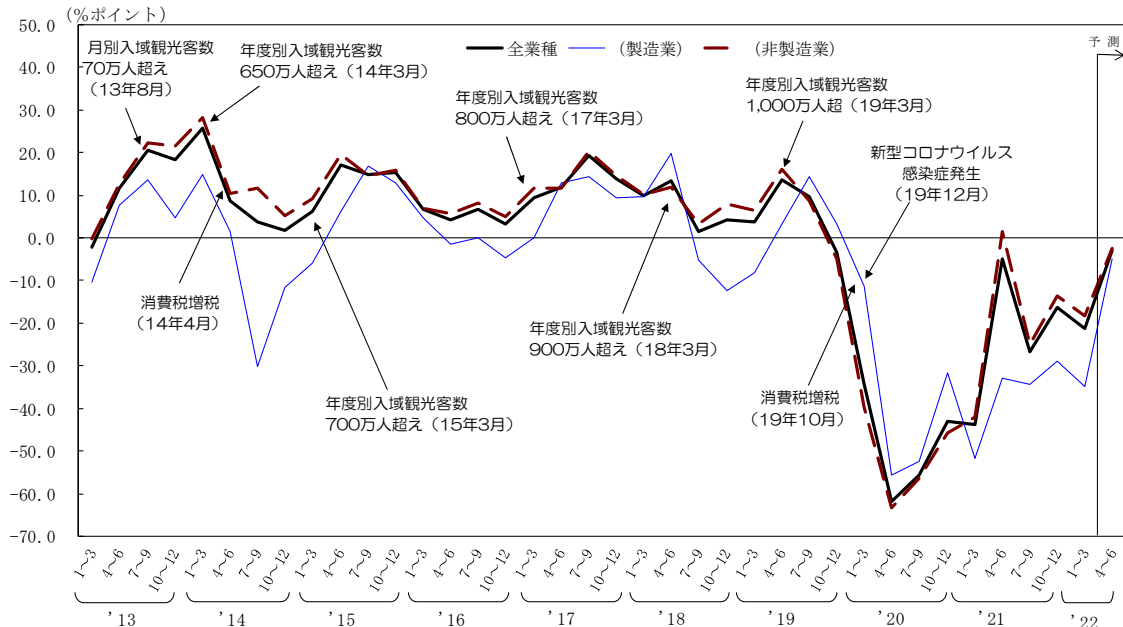
図表1-1. 業況判断D.I.

参考:業況判断D. I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2021年				2022年			
		10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I. (①-②)	$\Delta 43.1$	$\Delta 43.7$	$\Delta 5.0$	$\Delta 26.6$	$\Delta 16.4$	($\Delta 0.9$)	$\Delta 21.3$	$\Delta 3.0$
	① 好転(%)	10.6	10.9	25.7	15.1	18.8	(24.4)	15.0	21.3
	② 悪化(%)	53.7	54.5	30.8	41.7	35.1	(25.3)	36.3	24.3
製造業		$\Delta 31.7$	$\Delta 51.7$	$\Delta 32.8$	$\Delta 34.5$	$\Delta 29.0$	($\Delta 12.9$)	$\Delta 35.0$	$\Delta 5.0$
建設業		$\Delta 20.0$	$\Delta 15.2$	$\Delta 10.8$	$\Delta 25.0$	$\Delta 21.0$	($\Delta 19.4$)	$\Delta 24.6$	$\Delta 24.6$
卸売業		$\Delta 43.6$	$\Delta 35.9$	$\Delta 7.7$	$\Delta 29.3$	$\Delta 25.6$	($\Delta 20.9$)	$\Delta 29.5$	$\Delta 20.5$
小売業		$\Delta 44.7$	$\Delta 35.6$	4.5	$\Delta 40.5$	$\Delta 7.5$	(10.0)	$\Delta 20.5$	$\Delta 2.6$
運輸業		$\Delta 77.1$	$\Delta 70.6$	20.0	$\Delta 26.5$	$\Delta 5.9$	(14.7)	$\Delta 21.9$	12.5
情報通信業		$\Delta 36.8$	$\Delta 27.3$	11.1	9.5	19.0	(14.3)	$\Delta 5.0$	0.0
サービス業		$\Delta 55.6$	$\Delta 53.3$	2.4	$\Delta 7.1$	$\Delta 9.8$	(7.3)	$\Delta 16.3$	7.0
飲食店・宿泊業		$\Delta 66.7$	$\Delta 85.7$	7.1	$\Delta 48.1$	$\Delta 23.3$	(36.7)	0.0	31.3

図表1-2. 業況判断D. I. の推移



2. 景況天気

— 当期は3期連続の「曇り」、来期は「薄曇り」の見通し —

(1) [2022年1~3月期実績]

当期の県内企業の動向を全産業ベースでみると、資金繰りD. I. (△11.0→△14.4)で「苦しい」超幅がやや拡大、採算水準D. I. (△4.5→△6.9)で「赤字」超幅がやや拡大となったものの、売上D. I. (△23.5→△14.4)で「減少」超幅が縮小となったことから、景況天気 (△13.0→△11.9)は3期連続の「曇り」となった。

業種別にみると、建設業、卸売業で「曇り」から「薄曇り」、飲食店・宿泊業で「雨」から「曇り」、情報通信業で引き続き「薄曇り」、製造業、小売業、運輸業、サービス業で引き続き「曇り」となった。

(2) [2022年4~6月期見通し]

来期の見通しは、売上D. I. (2.4)で「減少」超から「増加」超、採算水準D. I. (0.9)で「赤字」超から「黒字」超に転じ、資金繰りD. I. (△12.0)で「苦しい」超幅がやや縮小となることから、景況天気 (△2.9)は「薄曇り」の見通しとなっている。

業種別にみると、建設業で「薄曇り」から「曇り」となるものの、小売業、サービス業、飲食店・宿泊業で「曇り」から「薄曇り」、卸売業、情報通信業で引き続き「薄曇り」、製造業、運輸業で引き続き「曇り」の見通しとなっている。

図表2-1. 景況天気図

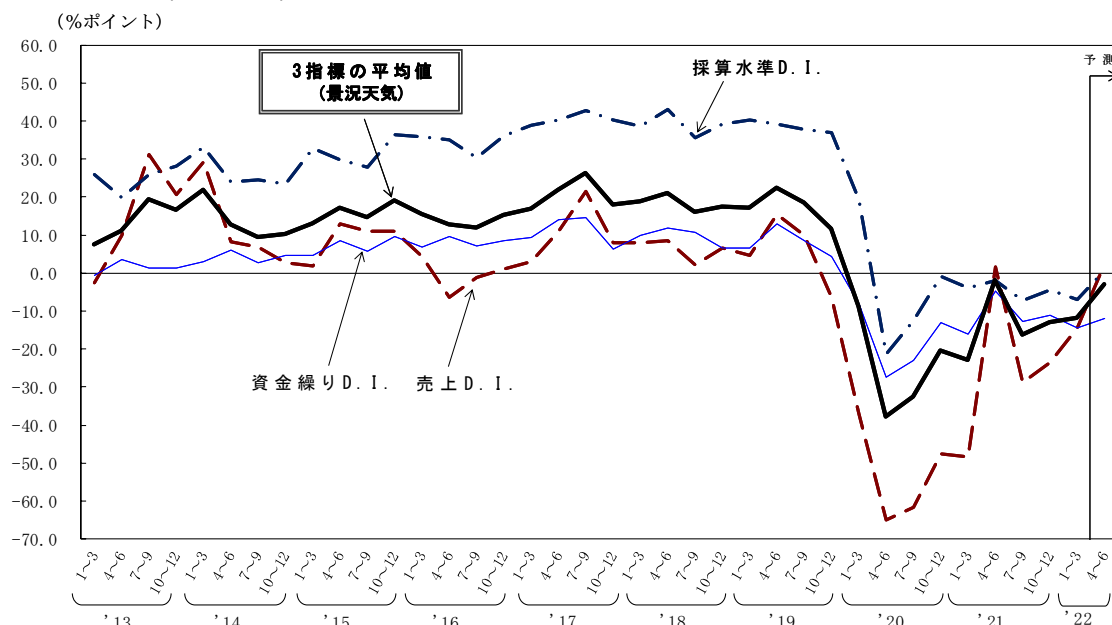
参考: 景況天気 (売上、採算水準、資金繰りD. I. の平均値)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2020年				2021年			2022年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	1~3月期 今回実績	4~6月期 今回見通し		
全産業		☁ △20.5	☁ △22.8	☁ △1.8	☁ △16.2	☁ △13.0	☁ (△3.5)	☁ △11.9	☁ △2.9		
製造業		☁ △10.6	☁ △20.0	☁ △13.0	☁ △25.9	☁ △21.5	☁ (△14.5)	☁ △19.4	☁ △10.0		
建設業		☁ △2.6	☁ 2.0	☁ △3.6	☁ △6.8	☁ △8.1	☁ (△6.5)	☁ △1.1	☁ △7.7		
卸売業		☁ △8.5	☁ △11.1	☁ 4.3	☁ △4.1	☁ △5.4	☁ (△6.2)	☁ 1.5	☁ 5.3		
小売業		☁ △22.0	☁ △15.6	☁ 0.0	☁ △24.6	☁ △9.2	☁ (11.7)	☁ △17.1	☁ 0.9		
運輸業		☁ △49.5	☁ △52.0	☁ 5.7	☁ △18.6	☁ △9.8	☁ (△1.0)	☁ △26.0	☁ △5.2		
情報通信業		☁ △5.3	☁ △1.5	☁ 9.3	☁ △3.2	☁ 3.2	☁ (3.2)	☁ △1.7	☁ 3.3		
サービス業		☁ △31.9	☁ △34.8	☁ 7.9	☁ △4.0	☁ △13.8	☁ (△1.6)	☁ △16.3	☁ △3.1		
飲食店・宿泊業		☁ △62.5	☁ △81.0	☁ △16.7	☁ △53.1	☁ △38.9	☁ (△4.4)	☁ △20.8	☁ △1.0		

☁ 快晴 — 30以上~100以下 ☁ 晴 — 10以上~30未満 ☁ 薄曇り — △5以上~10未満
 ☁ 曇り — △30以上~△5未満 ☁ 雨 — △100以上~△30未満

図表2-2. 売上,採算水準,資金繰りD. I. の推移 (全業種)



3. 売上

— 当期は「減少」超幅が縮小、来期は「減少」超から「増加」超に転じる見通し —

(1) [2022年1～3月期実績]

当期の売上D. I. は△14.4と、「減少」超幅が縮小した。

業種別にみると、運輸業で「増加」超から「減少」超に転じ、情報通信業で「保合い」から「減少」超となり、小売業で「減少」超幅がやや拡大となったものの、卸売業、飲食店・宿泊業で「減少」超から「増加」超に転じ、建設業、サービス業で「減少」超幅が大幅に縮小、製造業で「減少」超幅が縮小となった。

(2) [2022年4～6月期見通し]

来期の売上D. I. は2.4と、「減少」超から「増加」超に転じる見通しとなっている。

業種別にみると、建設業で「減少」超幅が大幅に拡大となるものの、小売業、運輸業、サービス業で「減少」超から「増加」超に転じ、飲食店・宿泊業で「増加」超幅が大幅に拡大、卸売業で「増加」超幅が拡大、製造業で「減少」超から「保合い」となり、情報通信業で「減少」超幅が大幅に縮小の見通しとなっている。

図表3-1. 売上D.I.

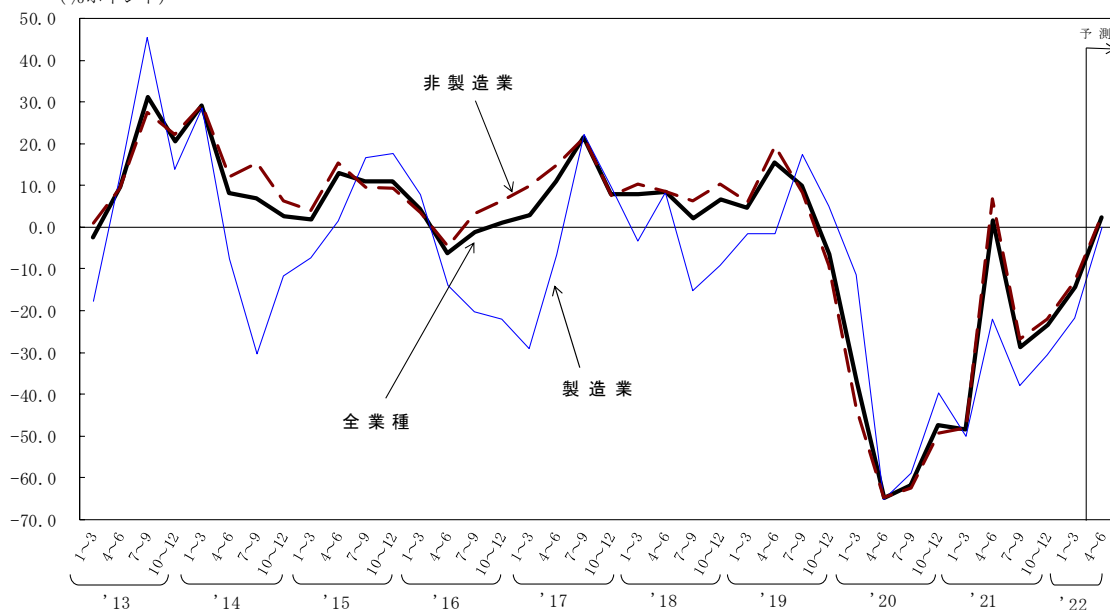
参考: 売上D. I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2020年		2021年				2022年		
		10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 前回実績	1～3月期 前回見通し	1～3月期 今回実績	4～6月期 今回見通し	
全産業 D. I. (①-②)		△ 47.5	△ 48.4	1.5	△ 28.7	△ 23.5	(△1.8)	△ 14.4	2.4	
	① 増加(%)	14.5	15.5	37.3	22.4	25.0	(32.4)	27.0	31.5	
	不変(%)	23.6	20.5	26.9	26.6	26.5	(33.3)	31.5	39.3	
	② 減少(%)	61.9	63.9	35.8	51.1	48.5	(34.2)	41.4	29.1	
製造業		△ 39.7	△ 50.0	△ 21.9	△ 37.9	△ 30.6	(△12.9)	△ 21.7	0.0	
建設業		△ 30.8	△ 25.8	△ 33.8	△ 31.3	△ 41.9	(△43.5)	△ 24.6	△ 37.7	
卸売業		△ 41.0	△ 38.5	△ 10.3	△ 31.7	△ 23.3	(△16.3)	2.3	9.1	
小売業		△ 51.1	△ 42.2	11.4	△ 40.5	△ 20.0	(25.0)	△ 23.1	5.1	
運輸業		△ 80.0	△ 82.4	37.1	△ 17.6	5.9	(26.5)	△ 15.6	12.5	
情報通信業		△ 52.6	△ 22.7	11.1	△ 4.8	0.0	(△4.8)	△ 25.0	△ 15.0	
サービス業		△ 46.7	△ 57.8	31.0	△ 2.4	△ 26.8	(2.4)	△ 14.0	9.3	
飲食店・宿泊業		△ 70.8	△ 92.9	42.9	△ 59.3	△ 23.3	(53.3)	9.4	59.4	

図表3-2. 売上D. I. の推移

(%ポイント)



4. 採算水準

— 当期は「赤字」超幅がやや拡大、
来期は「赤字」超から「黒字」超に転じる見通し —

(1) [2022年1～3月期実績]

当期の採算水準D.I.は△6.9と、「赤字」超幅がやや拡大となった。

業種別にみると、情報通信業で「黒字」超幅が大幅に拡大、建設業で「黒字」超幅が拡大、飲食店・宿泊業で「赤字」超幅がやや縮小となったものの、小売業で「黒字」超から「赤字」超へ転じ、製造業、運輸業、サービス業で「赤字」超幅が拡大、卸売業で「黒字」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2022年4～6月期見通し]

来期の採算水準D.I.は0.9と、「赤字」超から「黒字」超に転じる見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「黒字」超幅が大幅に縮小、建設業で「黒字」超幅が縮小となるものの、小売業で「赤字」超から「黒字」超に転じ、卸売業で「黒字」超幅がやや拡大、運輸業、サービス業で「赤字」超幅が大幅に縮小、製造業、飲食店・宿泊業で「赤字」超幅が縮小となっている。

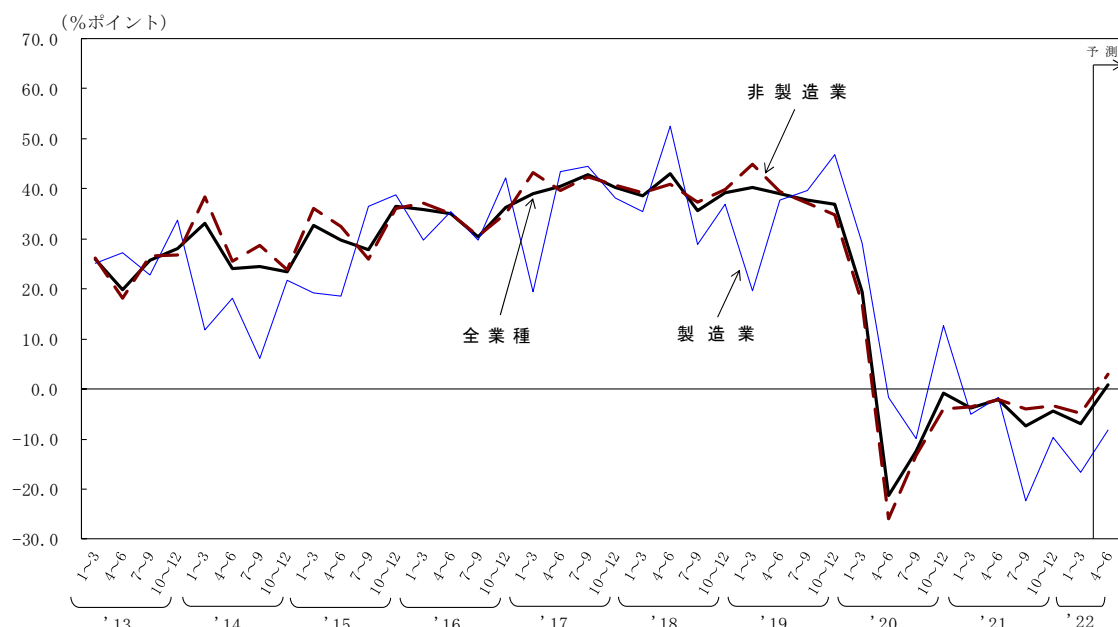
図表4-1. 採算水準D.I.

参考:採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2020年				2021年				2022年				
		10～12月期		1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期		1～3月期	4～6月期	
		実績		実績		実績		実績		前回実績		前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	△ 0.9		△ 3.8		△ 2.1		△ 7.3		△ 4.5		(2.7)	△ 6.9	0.9
	① 黒字 (%)	33.6		33.4		32.0		27.8		29.2		(31.5)	29.4	29.1
	トシ (%)	31.9		29.3		34.0		37.2		37.2		(39.6)	34.2	42.6
	② 赤字 (%)	34.5		37.2		34.0		35.0		33.6		(28.9)	36.3	28.2
製造業		12.7		△ 5.0		△ 1.6		△ 22.4		△ 9.7		(△4.8)	△ 16.7	△ 8.3
建設業		27.7		33.3		21.5		17.2		16.1		(29.0)	23.0	16.4
卸売業		17.9		15.4		20.5		19.5		14.0		(11.6)	13.6	15.9
小売業		4.3		6.7		△ 2.3		△ 14.3		5.0		(12.5)	△ 10.3	10.3
運輸業		△ 37.1		△ 41.2		△ 14.3		△ 20.6		△ 26.5		(△17.6)	△ 34.4	△ 6.3
情報通信業		15.8		18.2		22.2		4.8		14.3		(28.6)	35.0	20.0
サービス業		△ 26.7		△ 17.8		△ 9.5		△ 2.4		△ 12.2		(0.0)	△ 20.9	△ 4.7
飲食店・宿泊業		△ 70.8		△ 85.7		△ 85.7		△ 66.7		△ 60.0		(△60.0)	△ 56.3	△ 46.9

図表4-2. 採算水準D.I.の推移



5-1. 資金繰り

— 当期は「苦しい」超幅がやや拡大、 来期も「苦しい」超幅がやや縮小の見通し —

(1) [2022年1～3月期実績]

当期の資金繰りD. I. は△14.4と、「苦しい」超幅がやや拡大となった。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「苦しい」超幅が大幅に縮小、製造業で「苦しい」超幅がやや縮小となったものの、建設業で「楽」超から「苦しい」超へ転じ、運輸業、情報通信業、サービス業で「苦しい」超幅が大幅に拡大、小売業で「苦しい」超幅が拡大、卸売業で「苦しい」超幅がやや拡大となった。

(2) [2022年4～6月期見通し]

来期の資金繰りD. I. は△12.0と、「苦しい」超幅がやや縮小の見通しとなっている。

業種別にみると、製造業で「苦しい」超幅がほぼ横這いとなるものの、情報通信業で「苦しい」超から「楽」超に転じ、小売業、運輸業で「苦しい」超幅が縮小、卸売業で「苦しい」超幅がやや縮小、建設業、サービス業、飲食店・宿泊業で「苦しい」超幅が横這いの見通しとなっている。

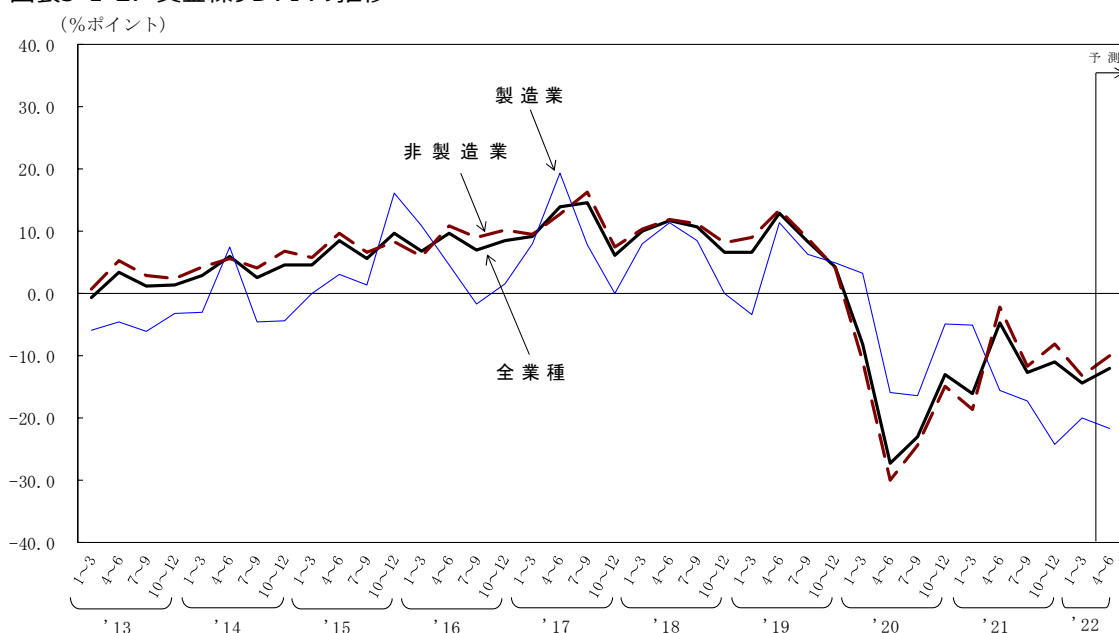
図表5-1-1. 資金繰りD.I.

参考：資金繰りD. I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位：%ポイント)

業種	区分	2020年				2021年				2022年			
		10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 前回実績	1～3月期 前回見通し	4～6月期 今回実績	7～9月期 今回見通し				
全産業	D. I. (①-②)	△ 13.0	△ 16.1	△ 4.7	△ 12.7	△ 11.0	(△11.3)	△ 14.4	△ 12.0				
	① 楽 (%)	10.0	9.4	9.8	4.2	6.0	(4.5)	3.3	3.0				
	不変 (%)	67.0	65.1	75.7	78.9	77.1	(79.8)	79.0	82.0				
	② 苦しい (%)	23.0	25.5	14.5	16.9	17.0	(15.8)	17.7	15.0				
製造業		△ 4.8	△ 5.0	△ 15.6	△ 17.2	△ 24.2	(△25.8)	△ 20.0	△ 21.7				
建設業		△ 4.6	△ 1.5	1.5	△ 6.3	1.6	(△4.8)	△ 1.6	△ 1.6				
卸売業		△ 2.6	△ 10.3	2.6	0.0	△ 7.0	(△14.0)	△ 11.4	△ 9.1				
小売業		△ 19.1	△ 11.1	△ 9.1	△ 19.0	△ 12.5	(△2.5)	△ 17.9	△ 12.8				
運輸業		△ 31.4	△ 32.4	△ 5.7	△ 17.6	△ 8.8	(△11.8)	△ 28.1	△ 21.9				
情報通信業		21.1	0.0	△ 5.6	△ 9.5	△ 4.8	(△14.3)	△ 15.0	5.0				
サービス業		△ 22.2	△ 28.9	2.4	△ 7.1	△ 2.4	(△7.3)	△ 14.0	△ 14.0				
飲食店・宿泊業		△ 45.8	△ 64.3	△ 7.1	△ 33.3	△ 33.3	(△6.7)	△ 15.6	△ 15.6				

図表5-1-2. 資金繰りD. I. の推移



5-2. 借入難易

— 当期は「困難」超幅がやや拡大、来期は「困難」超幅がほぼ横這いの見通し —

(1) [2022年1~3月期実績]

当期の民間金融機関からの借入難易D. I. は $\Delta 3.6$ と、「困難」超幅がやや拡大となった。業種別にみると、卸売業で「容易」超幅がやや拡大、運輸業で「困難」超から「保合い」となったものの、製造業で「容易」超から「困難」超へ転じ、建設業、サービス業で「保合い」から「困難」超となり、飲食店・宿泊業で「困難」超幅が拡大、小売業で「困難」超幅がやや拡大、情報通信業で「容易」超から「保合い」となった。

(2) [2022年4~6月期見通し]

来期の借入難易D. I. は $\Delta 3.9$ と、「困難」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。業種別にみると、飲食店・宿泊業で「困難」超幅が縮小、小売業、サービス業で「困難」超幅がやや縮小となるものの、卸売業で「容易」超から「困難」超へ転じ、運輸業で「保合い」から「困難」超となり、情報通信業で引き続き「保合い」、製造業、建設業で「困難」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表5-2-1. 借入難易D.I.

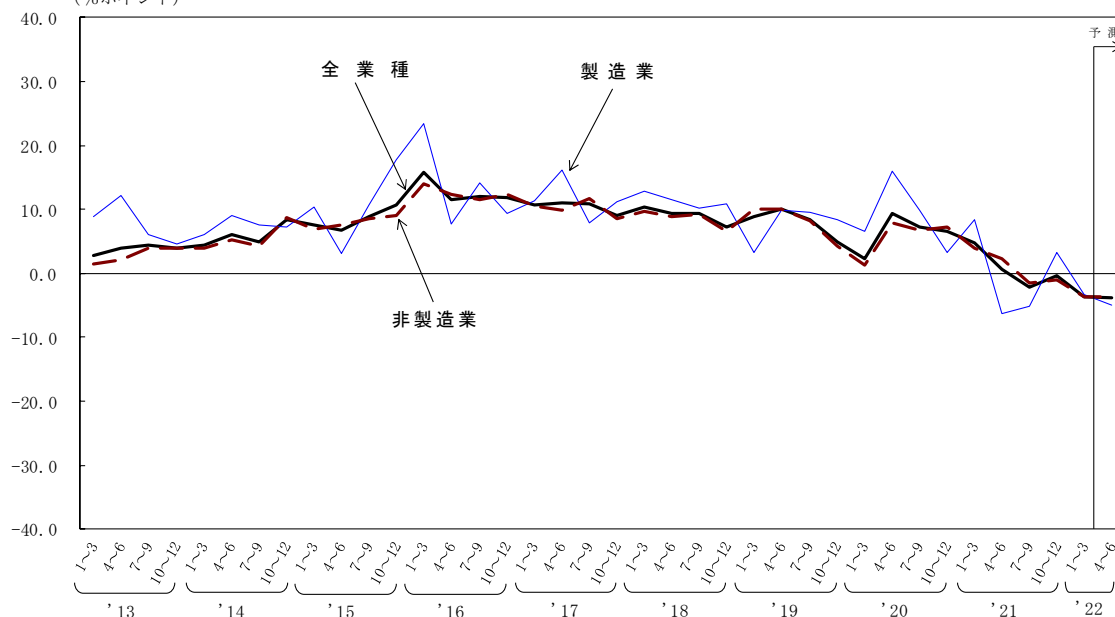
参考:借入難易D. I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2020年				2021年				2022年						
		10~12月期		1~3月期		4~6月期		7~9月期		10~12月期		1~3月期		4~6月期		
		実績	前回実績	実績	前回実績	実績	前回実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	前回見通し	今回見通し		
全産業	D. I. (①—②)	6.5		4.7		0.6		$\Delta 2.1$		$\Delta 0.3$		($\Delta 3.9$)		$\Delta 3.6$		$\Delta 3.9$
	① 容易 (%)	12.1		11.1		6.5		4.5		5.1		(3.6)		3.3		2.1
	不変 (%)	82.3		82.4		87.6		88.8		89.6		(89.0)		89.8		91.9
	② 困難 (%)	5.6		6.5		5.9		6.6		5.4		(7.4)		6.9		6.0
製造業		3.2		8.3		$\Delta 6.3$		$\Delta 5.2$		3.2		($\Delta 3.2$)		$\Delta 3.3$		$\Delta 5.0$
建設業		10.8		7.6		1.5		1.6		0.0		($\Delta 1.6$)		$\Delta 1.6$		$\Delta 3.3$
卸売業		10.3		17.9		2.6		$\Delta 2.4$		2.3		(2.3)		4.5		$\Delta 2.3$
小売業		12.8		8.9		4.5		$\Delta 2.4$		$\Delta 5.0$		($\Delta 12.5$)		$\Delta 7.7$		$\Delta 5.1$
運輸業		2.9		2.9		8.6		$\Delta 2.9$		$\Delta 2.9$		($\Delta 5.9$)		0.0		$\Delta 3.1$
情報通信業		21.1		4.5		0.0		9.5		4.8		($\Delta 4.8$)		0.0		0.0
サービス業		$\Delta 2.2$		$\Delta 6.7$		0.0		0.0		0.0		($\Delta 4.9$)		$\Delta 7.0$		$\Delta 4.7$
飲食店・宿泊業		$\Delta 4.2$		$\Delta 14.3$		$\Delta 3.6$		$\Delta 14.8$		$\Delta 6.7$		($\Delta 3.3$)		$\Delta 15.6$		$\Delta 6.3$

図表5-2-2. 借入難易D. I. の推移

(%ポイント)



Ⅲ. 参考

参考 1. 販売数量（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期は「減少」超幅がやや縮小、来期は「減少」超幅が大幅に縮小の見通し —

(1)〔2022年1～3月期実績〕

当期の販売数量D.I.は△26.6と「減少」超幅がやや縮小となった。
業種別にみると、小売業で「減少」超幅が拡大となったものの、製造業、卸売業で「減少」超幅が縮小となった。

(2)〔2022年4～6月期見通し〕

来期の販売数量D.I.は△10.5と、「減少」超幅が大幅に縮小の見通しとなっている。
業種別にみると、製造業、卸売業、小売業で「減少」超幅が大幅に縮小の見通しとなっている。

表1. 販売数量D.I.

参考：販売数量D.I.（前年同期比、「増加」-「減少」企業割合）

（単位：％ポイント）

業種	区分	2020年		2021年				2022年		
		10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期		4～6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業	D.I. (①-②)	△ 49.0	△ 45.8	△ 10.2	△ 42.6	△ 30.3	(△7.6)	△ 26.6	△ 10.5	
	① 増加(%)	12.1	14.6	30.6	15.6	21.4	(29.0)	21.7	23.1	
	不変(%)	26.8	25.0	28.6	26.2	26.9	(34.5)	30.1	43.4	
	② 減少(%)	61.1	60.4	40.8	58.2	51.7	(36.6)	48.3	33.6	
	製造業	△ 54.0	△ 53.3	△ 25.0	△ 44.8	△ 37.1	(△14.5)	△ 30.0	△ 16.7	
	卸売業	△ 43.6	△ 38.5	△ 12.8	△ 36.6	△ 34.9	(△23.3)	△ 27.3	△ 6.8	
	小売業	△ 46.8	△ 42.2	13.6	△ 45.2	△ 15.0	(20.0)	△ 20.5	△ 5.1	

参考 2. 販売価格（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期は「上昇」超幅が大幅に拡大、来期も「上昇」超幅が大幅に拡大の見通し —

(1)〔2022年1～3月期実績〕

当期の販売価格D.I.は39.9と、「上昇」超幅が大幅に拡大となった。
業種別にみると、製造業、小売業で「上昇」超幅が大幅に拡大、卸売業で「上昇」超幅が拡大となった。

(2)〔2022年4～6月期見通し〕

来期の販売価格D.I.は50.3と、「上昇」超幅が大幅に拡大の見通しとなっている。
業種別にみると、製造業、小売業で「上昇」超幅が大幅に拡大、卸売業で「上昇」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

表2. 販売価格D.I.

参考：販売価格D.I.（前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合）

（単位：％ポイント）

業種	区分	2020年		2021年				2022年		
		10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期		4～6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業	D.I. (①-②)	4.7	4.9	15.6	10.6	26.2	(42.1)	39.9	50.3	
	① 上昇(%)	14.1	16.0	24.5	19.9	31.0	(44.8)	44.1	54.5	
	不変(%)	76.5	72.9	66.7	70.9	64.1	(52.4)	51.7	41.3	
	② 下降(%)	9.4	11.1	8.8	9.2	4.8	(2.8)	4.2	4.2	
	製造業	6.3	6.7	18.8	8.6	19.4	(41.9)	35.0	50.0	
	卸売業	12.8	5.1	20.5	19.5	44.2	(53.5)	52.3	54.5	
	小売業	△ 4.3	2.2	6.8	4.8	17.5	(30.0)	33.3	46.2	

参考3. 在庫水準（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 「過剰」超幅がほぼ横這い —

〔2022年3月期末〕

在庫水準D. I. は△9.8 と、前期末と比べて「過剰」超幅がほぼ横這いとなった。
業種別にみると、小売業で「過剰」超幅がやや縮小、製造業で「過剰」超幅がほぼ横這いとなったものの、卸売業で「過剰」超幅が拡大となった。

表3. 在庫水準D.I.

参考：在庫水準D. I.（当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合）

（単位：%ポイント）

業種	区分	2020年	2021年				2022年
		12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末
全産業	D. I. (①—②)	△ 18.1	△ 16.7	△ 14.3	△ 13.5	△ 8.3	△ 9.8
	① 不足(%)	2.0	1.4	2.7	2.8	7.6	4.2
	適正(%)	77.9	80.6	80.3	80.9	76.6	81.8
	② 過剰(%)	20.1	18.1	17.0	16.3	15.9	14.0
	製造業	△ 14.3	△ 16.7	△ 12.5	△ 17.2	△ 11.3	△ 10.0
	卸売業	△ 20.5	△ 15.4	△ 17.9	△ 7.3	△ 2.3	△ 11.4
	小売業	△ 21.3	△ 17.8	△ 13.6	△ 14.3	△ 10.0	△ 7.7

参考4. 雇用判断

－ 当期は「不足」超幅がやや縮小、来期は「不足」超幅が拡大の見通し －

(1) [2022年1～3月期実績]

当期の雇用判断D. I. は28.5と、「不足」超幅がやや縮小となった。

業種別にみると、製造業、情報通信業で「不足」超幅が拡大、サービス業で「不足」超幅がやや拡大、建設業で「不足」超幅がほぼ横這いとなったものの、運輸業、飲食店・宿泊業で「不足」超幅が大幅に縮小、小売業で「不足」超幅が縮小、卸売業で「不足」超幅がやや縮小となった。

(2) [2022年4～6月期見通し]

来期の雇用判断D. I. は34.8と、「不足」超幅が拡大の見通しとなっている。

業種別にみると、建設業、情報通信業で「不足」超幅がやや縮小となるものの、運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で「不足」超幅が大幅に拡大、製造業、小売業で「不足」超幅が拡大、卸売業で「不足」超幅が横這いの見通しとなっている。

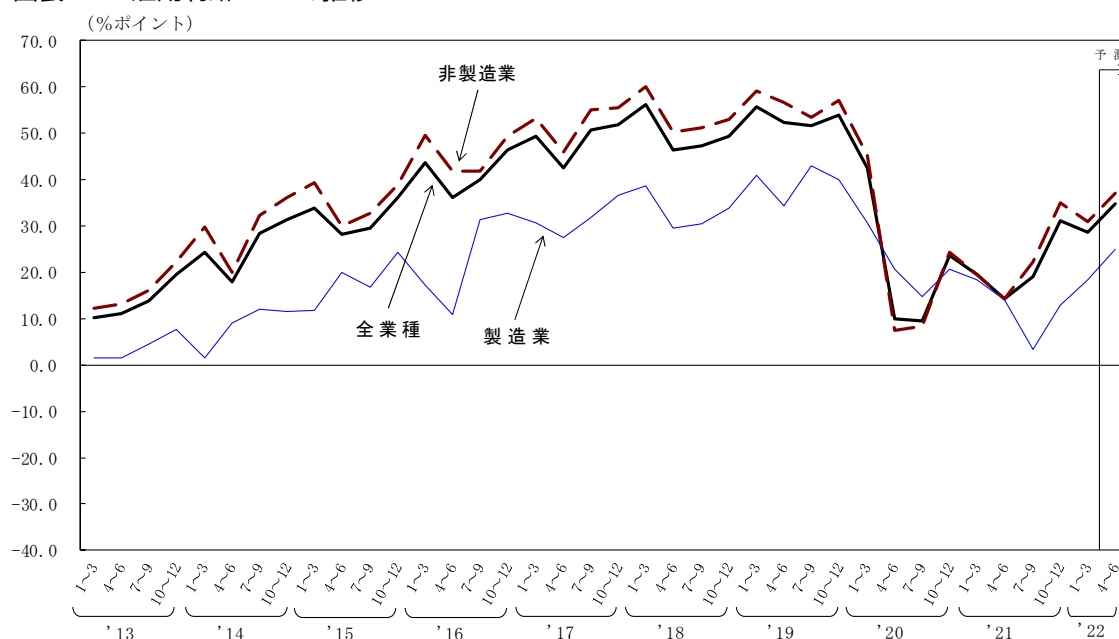
図表4-1. 雇用判断D.I.

参考:雇用判断D. I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2020年	2021年				2022年		
		10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 前回実績	1～3月期 前回見通し	1～3月期 今回実績	4～6月期 今回見通し
全産業	D. I. (①—②)	23.6	19.4	14.2	19.0	31.0	(32.1)	28.5	34.8
	① 不足(%)	33.3	30.2	26.0	29.0	36.6	(37.2)	36.0	39.0
	適正(%)	56.9	58.9	62.1	61.0	57.7	(57.7)	56.5	56.8
	② 過剰(%)	9.7	10.9	11.8	10.0	5.7	(5.1)	7.5	4.2
	製造業	20.6	18.3	14.1	3.4	12.9	(12.9)	18.3	25.0
	建設業	49.2	45.5	33.8	43.8	46.8	(41.9)	47.5	44.3
	卸売業	20.5	7.7	10.3	17.1	27.9	(30.2)	25.0	25.0
	小売業	23.4	22.2	11.4	11.9	25.0	(27.5)	17.9	25.6
	運輸業	20.0	23.5	8.6	11.8	32.4	(35.3)	12.5	31.3
	情報通信業	0.0	4.5	11.1	33.3	33.3	(38.1)	40.0	35.0
	サービス業	17.8	17.8	14.3	23.8	34.1	(36.6)	37.2	48.8
	飲食店・宿泊業	0.0	△ 17.9	△ 10.7	0.0	40.0	(50.0)	25.0	46.9

図表4-2. 雇用判断D. I. の推移



参考 5. 経営上の問題点

— 9期連続で「売上の不振」が最多となる —

〔2022年1～3月期実績〕

当面の経営上の問題点としては、9期連続で「売上の不振」（図表5-1の表頭①21.7%）の割合が最も高く、続いて「原材料高」（同④19.5%）、「利益の減少」（同③17.8%）の順となった。

業種別にみると、製造業、建設業では「原材料高」の割合が、卸売業、小売業、運輸業では「売上の不振」の割合が最も高くなった。また、情報通信業では「売上の不振」と「利益の減少」が同率で最も高く、サービス業では「求人難」の割合が最も高くなった。

図表5-1.経営上の問題点(複数回答)

		(単位：%)												
区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
業種	売上の不振	製品安等	利益の減少	原材料高	人件費の増加	人件費以外経費の増加	代金回収難	借入難	余剰人員	求人難	設備・店舗の狭小等	事業承継	その他	
全産業	21.7	1.5	17.8	19.5	6.9	6.4	0.5	1.2	0.4	13.3	7.5	1.3	1.9	
製造業	22.2	0.6	20.4	29.3	1.8	9.6	0.6	0.6	0.6	6.6	7.2	0.0	0.6	
建設業	16.0	0.7	16.0	24.0	10.0	4.0	0.7	1.3	0.0	20.7	4.0	1.3	1.3	
卸売業	20.9	6.4	16.4	20.0	7.3	8.2	0.0	0.9	0.0	10.0	6.4	1.8	1.8	
小売業	21.4	1.0	20.4	15.3	4.1	8.2	1.0	0.0	0.0	10.2	13.3	2.0	3.1	
運輸業	28.6	0.0	15.6	20.8	3.9	5.2	0.0	0.0	0.0	11.7	10.4	1.3	2.6	
情報通信業	28.6	0.0	28.6	4.8	4.8	0.0	2.4	2.4	0.0	19.0	4.8	4.8	0.0	
サービス業	18.9	2.8	13.2	9.4	13.2	8.5	0.0	1.9	0.9	19.8	8.5	0.9	1.9	
飲食店・宿泊業	27.1	0.0	17.6	15.3	10.6	1.2	0.0	3.5	1.2	11.8	5.9	1.2	4.7	

図表5-2. 経営上の問題点 (複数回答)

